様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ９ 月　 ８ 日現在

機関番号：２１２０１
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１８６０６

研究課題名（和文）ソーシャルワーカー（社会福祉士）養成教育に対するエスノメソドロジー導入効果の研究

研究課題名（英文）The effect of ethnomethodology on social worker training education

研究代表者
藤田　徹（fujita, toru）

岩手県立大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：８０２３８５７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、「いまーここ」における実践を明らかにするエスノメソドロジー（以下、EM)の手続きを社会福祉士養成教育に導入する効果の見極めることにある。それを「演習」「ロールプレイ」「記録」をテーマとして進めた。既存の社会福祉士養成教育が手がけるテーマの課題、「演習」の習得すべき専門能力をの不明確化、「ロールプレイ」の漠然とした経験と振り返り、「記録」の方法的な学習機会は皆無などに対するEM導入の効果を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、社会福祉士養成教育の抽象的限界を打破することを目的とした。既存の社会福祉士養成教育は、教科書を用いた座学が圧倒的に多く、実践現場で求められる専門能力の習得はごく限られた機会に止まってきた。その課題に対して、「いまーここ」における実践を解明するエスノメソドロジーの意図と方法は、極めて有効であり、その効果は、社会福祉士の社会的責任を全うする上で必須な能力であることを明らかとした。

研究成果の概要（英文）：This study is to make sure the effect of ethnomethodology for social worker training education. Especially,clarified the effect of ethnomethodology on the vulnerability of " exercises" , the empiricism of "role play", and the lack of methodology of "recording".

研究分野：ソーシャルワーク研究

キーワード：相互行為　専門能力　事実の記述

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、社会福祉士の国家資格化（1987 年度）が成就して 30 年以上の歳月が流れた。しかし一方で、現状の専門職としての社会福祉士に対する社会的認知は一向に進まない状況にある。他の専門職と比べた時、その要因を、専門職としての役割、つまり、社会福祉士ならではの専門能力の領域が定まらず、そのことによる専門能力の曖昧さ、脆弱性に求めることができる。そして、その課題を、社会福祉士養成課程（以下、養成課程）の教育内容へ結びつけることができる。なんとならば、当該養成課程で教授される能力が、社会福祉士としての専門能力の基本となるからである。

さて、当該養成課程で賄われる教育内容及び形態は、大きく「講義」「演習」「実習」の 3 つの柱で構成されていることが理解できる。それぞれの柱の意図を持つ教育機会を踏まえることによって、総合的な専門能力を身につけた社会福祉士の養成をねらいとしている。しかし、その構成内容を精査すると、圧倒的に「講義」、つまり、法律、制度、方法、技術等の知識の習得へ偏重していることがわかる。もちろん、「演習」及び「実習」において、より実践的な学習を目指す機会もあるが、その割合は、限られた時間数でしかないし、かつ内容も現場における実践能力を担保できる能力を賄えるものとは言えない現状にある。

それらのことを踏まえて、本研究では、当該養成教育の構成上の歪みと教育内容の不十分性が、社会福祉士の実践的な能力の習得にとって、極めて深刻な足枷となり、現場における実践能力を担保でき、寄ってその社会的認知を阻む要因となっていることをその背景として捉えてた。

２．研究の目的

上記のように、当該養成課程の教授内容が、必ずしも社会福祉士としての実践的な専門能力を賄うものではなく、法律、制度、方法、技術等の、いわゆる一般論、あるいは最大公約数的な知識の習得を中心とすることによって、社会福祉の現場および実践で求められる能力、いわゆる専門能力を担保するものではないという課題あるいは限界を明らかにし、その上で、社会福祉士として実践的に求められる能力、それらは、クライエント一人一人の状況の見極めと、根拠のある課題の明確化、そして、それらに基づく実行力を持った実践能力の習得のために求められる知識の形態＝養成教育の教授内容について、「≪いま－ここ≫における実践」を事実解明的に見極めるエスノメソドロジーの知見を持って明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

当該養成課程を構成する「講義」「演習」「実習」の 3 つの柱から、特に、「演習」及び「実習」を対象として取り上げた。その意図としては、「講義」を法律、制度、方法、技術等々の一般的あるいは最大公約数的な知識の習得の機会であることに対して、「演習」「実習」は、「講義」等で習得した一般的、最大公約数的知識を活用する機会（それはシミュレーション等を含め）を通して、それらの知識を手段としてソーシャルワークを実行する能力の修得を目指している。その「演習」「実習」で用いられている教育方法としての「事例研究」「ロールプレイ」「記録方法」は、社会福祉士の専門能力を形成する上で、極めて効果的手段である。それらをテーマとして、エスノメソドロジー的な分析手法を前提とした上で、当該養成課程で取り組まれているそれぞれの内容を他の養成課程、医学・看護学・薬学・理学療法等の取り組みとの比較において、その実態、方法、成果、課題を軸としつつ、分析を進めた。

４．研究成果

まず、「事例研究」については、実際の「演習」の機会において、例えば、ひとつの事例を「読む」あるいは「観る」ことをした学習者が、その体験の振り返り内容を記録する。その上で、その記録分析を通して、学習者の自らの経験に対する再評価の不十分性、また、振り返りの記録と実際の経験（記録を踏まえた質問による振り返り）との齟齬を確認し、単なる印象に基づく振り返りの限界を確認することを、記録内容と評価の関係において明らかにすることができた。

また「ロールプレイ」については、他専門職の養成教育（医学・看護学・薬学・理学療法）の取り組みの比較研究を行うことによって、当該養成教育の「ロールプレイ」の限界を指摘した。特に、当該養成教育以外の養成教育における「ロールプレイ」のねらいが、実践現場を想定して取り組まれていること、また、その取り組みが極めて現実に求められる能力の涵養を目指している点を特徴としていることを確認することができた。

さらには、「記録方法」についても、実習の機会、もちろん実践現場でも常に求められる能力でありながら、当該養成教育では、一般論としての学習機会はあっても、実践的な場面で求められる方法として能力を賄う機会はほとんど担保されていない。実際の調査においても、現役の社会福祉士の共通する「記録方法」に関する共通理解、認識を確認することができなかったことも

その反映と考えられる。その課題と対応の必要性の見極めを行うことができた。
　以上のように、当該養成教育の内容の課題を明らかとするとともに、その課題の解消にとって必要な教育方法を、「≪いま-ここ」≫における実践」に対するまなざしを向けることができるエスノメソドロジーの視点によって構築する可能性を成果として確認することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 鈴木淳一・藤田徹	４．巻 第23巻
２．論文標題 ソーシャルワーカーの「＜記録＞をとる」能力をめぐる課題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	６．最初と最後の頁 １３－２６
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 畠中耕・藤田徹	４．巻 第23巻
２．論文標題 「相談援助演習」におけるロールプレイング技法の課題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	６．最初と最後の頁 ２７－３７
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 畠中耕・藤田徹	４．巻 22
２．論文標題 社会福祉士養成教育における「相談援助演習」が賄うべき＜専門能力＞とは何か	５．発行年 2020年
３．雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	６．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	畠中　耕 (hatakenaka kou) (70348126)	福井県立大学・看護学部・講師 (34528)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	泉　啓 (izumi kei) (20646426)	岩手県立大学・社会福祉学部・講師 (21201)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関